

厚生労働科学研究費補助金

子ども家庭総合研究事業

要保護児童のための児童自立支援計画ガイドラインの

活用と評価に関する研究

－ 要保護児童とその家庭の支援に向けた

全年齢対応自立支援計画作成コンピュータ支援ツール

「相談くん version 1.0」の開発と利用 －

平成 18 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 菅原 ますみ

平成 19 年（2007 年）3 月

目 次

I. 総括研究報告

- 厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書概要 1
- 1. 児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール「相談くん version 1.0」の開発..
..... 6
- 2. 子どもの発達と家族機能のアセスメント精査尺度の開発と標準値設定 3 8
- 3. 自立支援計画ガイドライン活用に関する研修プログラムの開発 9 5

II. 分担研究報告

- 1. 児童相談所における「子ども家庭総合評価票」の電子化に関する研究
安村 通晃 1 0 0
- 2. 子ども家庭総合評価票およびコンピュータ入力システムの開発に
関わる全国調査の概要
松本聡子・菅原ますみ 1 0 9
- 3. 児童期から青年期の子どもの友人関係と学校適応－青少年の親友関係と学校へ
の適応をよりよく測定する項目の検討－
酒井 厚 1 1 7
- 4. 自立支援計画票の活用に関する研究 - 情性検査の開発に関する研究 -
相澤 仁・板垣辰彦・有村大士 1 3 5

III. 添付資料

- * 児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール「相談くん version 1.0」一式（C
D 1 枚に格納：全バージョン評価票、児童期養護・虐待・育成版総括一覧シート、
資源性・困難性シート、ユーザースガイド、Read Me ファイル、資源欄付き児童
自立支援計画票・児童相談所援助指針票および記述例）
- * 児童福祉施設調査の単純集計結果

I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書概要

研究費の名称 = 厚生労働科学研究費補助金

研究事業名 = 子ども家庭総合研究事業

研究課題名 = 要保護児童のための児童自立支援計画ガイドラインの活用と
評価に関する研究 (16112001)

国庫補助金清算所要額 (円) = 14,000,000

研究期間 (西暦) = 2005-2006

研究年度 (西暦) = 2006

主任研究者名 = 菅原ますみ (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)

分担研究者名 = 安村通晃 (慶応義塾大学), 相澤仁 (国立きぬ川学院), 酒井厚 (山梨大学
教育人間科学部), 松本聡子 (お茶の水女子大学文教育学部)

<研究目的>

要保護児童の適切な発達に対する支援計画を策定していくためには、当該児童の発達過程においていつ、どのような子ども自身の心身の発達の遅れ (delay) や異常状態 (abnormality=心身の疾患や障害などの機能不全) が、どのようなメカニズムで発現し、どのような介入 (treatment) によってそれらを適切な方向に動きうるか、またさらなる発達につなげていくにはどのような支援が適切かについて、科学的に解明していくことが必要であると考えられる。本研究では平成 16 年度に設定された“児童自立支援計画ガイドライン”の有効な活用を目指して、子どもの発達保障に基づく支援計画を科学的かつエビデンス・ベースドなアプローチによって立案することを可能にするための基礎となる評価システムの作成・洗練化とその汎用化方法の開発を目的としておこなわれた。

今年度の研究では、以下 4 点の成果を得た：(1) 児童相談所を対象とした電子環境アンケートおよび収容型児童福祉施設 (乳児院、養護施設、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設) へのヒアリングの結果から個人情報保護と情報漏洩防止を一層強化した電子化システムが必要であることが明らかとなり、この要請に従って今年度は自立支援計画立案者の単独コンピューターのみで使用可能なスタンドアローン型の情報記録・評価システム (子ども家庭総合評価票電子版：「相談くん version1.0」) を開発し、現場でのモニター調

査を経て完成させた。(2)(1)で開発をおこなった電子評価システムと連動して個別ケースの定性的特徴を抽出・記述する「困難性・資源性シート」を開発した。(3)昨年度から継続しているケースの特徴(問題性の程度の見立てと資源性の発見)を把握するために特に重要と考えられる諸尺度(国際的子どもの問題行動尺度の日本語版の開発:Strength and Difficult Questionnaire 日本語版、子ども期の抑うつ傾向尺度:Child Self-Rating Depression Scale、学校適応尺度、自己評価尺度、養育者との愛着関係尺度、養育機能尺度:Observational Record of the Caregiving Environment 尺度、など)の開発・検討と、これらの尺度に関する年齢相当標準値設定のための全国調査(0歳~18歳までを対象、施設群・一般人口群両者を合わせて担当専門職者版8,654部(0歳~18歳)、子ども自記入版11,341部(小学校4年生以上)回収)を完了し、標準値表を完成させた。(4)自立支援計画ガイドラインを普及するためのパンフレットを作成・配布し、自立支援計画を立案し実際の支援にあたる専門職(児童福祉司、保育士、臨床心理士、児童指導員など)の研修プログラムを実践的に開発した。

<研究方法>

研究目的を遂行するために、以下の3点に関する研究を展開した:

1) 0歳~18歳までの全年齢対応の自立支援計画作成コンピュータ支援ツール「相談くん version 1.0」の開発とモニター調査の実施:児童福祉現場に関する電子環境調査を実施したうえで、乳児期から青年期(乳児期版・幼児期版・児童期版・思春期版・青年期版)のケース評価および情報保存をスタンドアローン・コンピュータ上で実施する支援ツール「相談くん version1.0」を開発し、試作版に関するモニター調査を実施した。

2) 評価内容の予測妥当性と標準値策定のための全国調査

:発達主要領域、心身の健康度および環境評価に用いる評価尺度の開発と検討をおこなうために、昨年度より継続している諸調査を完了した。就学前については養育機能と乳幼児の発達との関連に関する観察調査を含めた総合的研究を実施し、また標準値策定を目的とした0歳~18歳までのアンケート調査を収容型児童福祉施設および一般の保育園・幼稚園・子ども家庭支援センター・小学校・中学校・高等学校を対象として全国規模で実施した。

3) 自立支援計画ガイドラインを活用した現場実践者のための研修プログラムの開発

:要保護児童とその家庭に対する支援計画を立案するために必要な基礎的知識と技術の効率的な修得を目指した研修プログラムの開発を多様な関連現職研修(児童相談所、養護施設、児童自立支援施設、乳児院、母子支援施設、保育所、教育相談センター、子ども家庭支援センター、保健センター児童館等)を通じて実践的に進めた。

<結果と考察>

:要保護児童のための自立支援計画を立案するためには、子どもの発達状況および家庭・

地域などの多様な環境因子の収集・評価・記録が不可欠であるが、本研究によって 0 歳から 18 歳までの広範囲な年齢段階を通して使用可能な汎用型の支援計画票作成電子化システムが作成され、多様な情報を効率よく収集・評価・保存し、かつ集計を可能にするコンピュータ支援ツールが完成した。乳児期から青年期までの子どもの健全な発達と問題行動の発達の状態評価およびそこに影響する環境因子の評価を発達軸に沿って評価する本電子システムの開発によって、今後、子どもの健全育成に関する多様な学術的研究や広範囲な福祉・保育・教育実践での利用が見込まれる。また、今回のシステムのために実施した子どもの行動発達や養育機能に関する国際的な評価尺度の日本語版の開発と要保護児童と一般児童の両者を対象とした大規模全国調査による標準値設定作業によって、わが国の子どもの発達およびメンタルヘルス領域に不足していた基準値に関する基礎的知見を提供することができ、これらの基準値は今後の現場でのケース検討や関連研究に大きな貢献をなしうるものと考えられる。とくに国際的な尺度の標準値に関しては、我が国の子どものたちの問題性と資源性の特徴をエビデンス・ベースドに検討していくことを可能にし、児童福祉や教育政策レベルでの議論の基礎的資料を提出しうるものと考えられる。

<結論および今後の展望>

学術研究領域においては、子どもの精神病理および問題行動発現のメカニズムの解明と処遇による予後経過の分析を可能にする総合的評価システムの普及を促進し、予防を中心とした関連研究の活性化を促すことが期待される。また、行政や臨床現場においては、広範囲な児童福祉および教育関連機関（児童相談所、市町村の子ども家庭相談窓口、保育所や学校など）や児童施設（養護施設、児童自立支援施設、乳児院など）での連携的使用によって、施設間で一貫性のあるケース評価ならびにこれに基づく児童自立支援計画の策定に貢献しうるものと考えられる。

<成果発表状況>

1. 学術論文

菅原ますみ (2006) 乳児期の発達と養育者とのコミュニケーション *Brain Medical*, 18(3), 55-60.

眞榮城 和美・菅原 ますみ・酒井 厚・菅原 健介 (印刷中) 改訂・自己知覚尺度日本語版の作成-児童版・青年版・大学生版を対象として- *心理学研究*第 78 巻, 2 号(掲載内定)

山形伸二・菅原ますみ・他 7 名 (2006) 外在化型問題行動と内在化型問題行動はなぜ相関するか — 相関関係の行動遺伝学的解析 — *パーソナリティ研究*, 15, 103-119.

菅原健介、永房典之、佐々木淳、藤澤文、薊理津子 2006

青少年の迷惑行為と羞恥心～公共場面における 5 つの行動基準との関連性
聖心女子大学論叢 107, 59-77.

2. 単行本

菅原ますみ (監訳) (2006) 発達精神病理学 —子どもの精神病理の発達と家族関係—
E.Mark Cummings, Patrick T. Davies, Susan B. Campbell 著 ミネルヴァ書房

3. 学会発表

菅原ますみ, 松本聡子他, 家庭での養育の質と言語発達との関連, 日本子ども学会第3回
学術集会, 甲南女子大学(神戸), 2006年9月3日

菅原ますみ, 松本聡子他, 要保護児童における被虐待経験とその関連要因—子ども家庭総
合評価票による児童福祉機関調査から(2)—. 日本心理学会第70回大会, 九州大学(福
岡), 2006年11月.

松本聡子, 菅原ますみ他, 要保護児童における家庭・地域環境要因の特徴—子ども家庭総
合評価票による児童福祉機関調査から(2)—. 日本心理学会第70回大会, 九州大学(福
岡), 2006年11月.

伊藤教子, 菅原ますみ他, 要保護児童における家庭・地域環境要因の特徴—子ども家庭総合
評価票による児童福祉機関調査から(3)—. 日本心理学会第70回大会, 九州大学(福
岡), 2006年11月.

酒井厚, 菅原ますみ他, 要保護の児童の被虐待経験と非行経験および交友関係との関連—
子ども家庭総合評価票による児童福祉機関調査から(4)—. 日本心理学会第70回大会,
九州大学(福岡), 2006年11月.

菅原ますみ, 田中麻未他, 双生児の気質と性格の発達に影響する遺伝と環境. 日本双生児
研究学会第20回大会, 国立保健医療科学院(和光市). 2007年1月.

田中麻未, 菅原ますみ他, 学校不適応に関する環境要因と遺伝要因の検討. 日本双生児研
究学会第20回大会, 国立保健医療科学院(和光市) 2007年1月

戸田まり・金山健一・松本聡子・菅原ますみ 中学生における友人関係と共感性. 日本発達
心理学会 2007年3月 埼玉大学(浦和市)

菅原ますみ・酒井厚・松本聡子他 子どもの発達と養育環境要因との関連に関する縦断的研
究— 幼児期における家庭内外での養育の質と発達変数との関連について— 日本子ど
も学会第3回大会, 甲南女子大学(神戸), 2006年9月

Kazumi Maeshiro, Masumi Sugawara, Atsushi Sakai & Kyoko Ito, The Longitudinal Developmental
Change in Self-evaluation from Childhood to Adolescence. 12th Biennial Meeting of the
International Society for the Study of Individual Differences. Adelaide, Australia, July,

眞榮城和美・菅原ますみ・酒井厚 自己評価と不適応行動との関連研究 児童期から青年期
までの縦断的研究, 日本心理学会第70回大会, 福岡国際会議場, 2006年11月

眞榮城和美・菅原ますみ・酒井厚 子どもの自己評価と精神的健康に関する縦断的研究, 日
本パーソナリティ心理学会第14回大会, 岩手大学, 2005年11月

菅原健介・藤澤文・薊理津子・永房典之 2006 公共場面での行動基準に関する研究

(1) —公共場面における行動基準尺度の作成と妥当性の検討—

日本心理学会第70回大会, 九州大学(福岡), 2006年11月.

藤澤文・薊理津子・永房典之・菅原健介 2006 公共場面での行動基準に関する研究

(2) —大学生における行動基準尺度と道徳性の関連—

日本心理学会第70回大会, 九州大学(福岡), 2006年11月.

薊理津子・永房典之・菅原健介・藤澤文 2006 公共場面での行動基準に関する研究

(3) —居住期間、近所付き合い、地元意識と行動基準との関係—

日本心理学会第70回大会, 九州大学(福岡), 2006年11月.

永房典之・菅原健介・藤澤文・薊理津子 2006 公共場面での行動基準に関する研究

(4) —中高生の問題行動と学校適応—

日本心理学会第70回大会, 九州大学(福岡), 2006年11月.

1. 児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール

「相談くん version 1.0」の開発

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
要保護児童のための児童自立支援計画ガイドラインの活用と評価に関する研究
（主任研究者 菅原ますみ）

総括研究報告書
全年齢対応児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール
「相談くん version 1.0」の開発

菅原ますみ・松本聡子（お茶の水女子大学）
安村通晃（慶應義塾大学）・相澤 仁（国立きぬ川学院）
酒井 厚（山梨大学）

研究要旨 要保護児童とその家族に対する自立支援計画ガイドラインの活用に向けて、ケースの特徴評価とその記述作業の質と効率の向上を目的とした“全年齢対応児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール「相談くん version 1」”を開発した。本ツールは主に児童相談所と児童福祉施設で共有されることを目的としており、以下の内容を含んでいる：① 子ども家庭総合評価票（0歳～18歳までの5年齢段階（乳児期版、幼児期版、児童期版、思春期版、青年期版×2相談種別=10バージョン） ② ①から自動的に作成される総括一覧シート ③ ②から自動的に作成されるケースの特徴シート”資源性と困難性シート“ ④ ユーザーマニュアル ⑤ Read Me ファイル ⑥ 児童自立支援計画票・児童相談所援助指針票と記述例。⑦ 主要な子どもの発達と健康に関する精査尺度集と標準値。

研究協力者

木村 修・高柳年隆（株式会社イー・アンド
・ディー）
大谷裕子（フリーエディター）

A. 研究目的

要保護児童とその家族の抱える問題の解決と適切な子どもの発達に対する支援計画を策定していくためには、問題発生に至ったプロセスと解決に至る道すじに対する適切な情報収集とケース評価が重要となる。子どもの自立支援にあたっては、子どもの発達過程において出現する子ども自身の発達の遅れ（delay）や異常状態（abnormality＝問題行動や精神的な機能不全）あるいは家庭の困難がどのような過程を経て発現し

たのかを考察し、どのような介入（treatment）によってそれらを適切な方向に動かすことが可能か、また子どものさらなる発達につなげていくにはどのような支援が適切かについて、科学的な観点に基づいてアプローチしていくことが必要であると考えられる。本研究では、こうした子どもの発達保障に関する新しい発達研究領域である発達精神病理学（Developmental Psychopathology, Chiaceti et al., 2004; Cummings et al., 2000; 菅原他2006など）の知見と方向性に基づいたケース評価シス

テム:子ども家庭総合評価票(菅原他、2005)の汎用化をめざして、コンピューター入力ツールの開発を目的として実施された。

先行研究(菅原他、2005)によって開発された子ども家庭総合評価票は、同様に発達精神病理学的観点から作成されたイギリス健康省のFramework for the assessment of children in need and their families (Department of Health, UK, 2000)に準拠して、情報収集および評価の対象領域をパートⅠ:子ども自身(現在の発達状況や生育歴、問題性と資源性の有無、活動の様子など)、パートⅡ:家庭(養育者の心身の健康度、家庭の社会経済的状況、家族の関係性、養育機能、家族歴など)、パートⅢ:地域(居住地域の養育支援性、近隣との関係性、保育・教育機関との連携の程度、地域の子育て支援資源の利用度など)の3領域から構成されている。今回開発された子ども家庭総合評価票は、児童相談所および児童福祉施設で共有される児童自立支援計画(児童自立支援計画ガイドライン、児童自立支援計画研究会、2005)の策定を支援することを目的としており、広範囲な子どもの問題や精神病理発現に関する膨大な科学研究から明らかになってきている危険因子(risk factor)および予防や回復に資する防御因子(protective factor)や資源因子(resource factor)を評価項目として含んでいる(菅原他、2005)。現場の相談業務の時間的制約を踏まえつつ、ケース援助に関する適切で科学的根拠を持ったストーリー化を可能にするために必要なこれらの諸項目を、効率よく、かつできるだけ漏れなく情報管理・評価するコンピューター入力・評価・情報保存システムの実現を構想し、ソフト開発をおこなった。

平成18年度の目的は以下の3点である:

(1) スタンド・アローンタイプの評価票システムの開発

平成17年度の研究では、(1)システムの維持・更新管理、(2)情報の効率的な共有の観点からネットワークを利用したブラウザタイプのシステムを開発したが、17年度後半期に大きな社会的問題となった官公庁のインターネットを通じた大規模な情報漏えい問題が起こったことにより、平成18年度の研究ではスタンド・アローンタイプのシステム開発をおこなうことになった。これは、社会的な情報環境がさらに整備されてネットワークを通じた情報保護が向上した場合には、先述のメリット(維持管理と迅速かつ大規模な情報収集・交換)を有する平成17年度開発のブラウザタイプのシステムが有効であると考えられるが、現状では個人情報に関する保護性の高いスタンド・アローンタイプの利用がより現実的であるとの判断によるものである。

(2) 定性的評価記述シートの開発

また平成18年度のシステム開発にあたっては、評価項目得点を利用した定量的な観点からの評価シート(総括一覧シート、添付資料参照)に加え、ケースの定性的な特徴記述を評価シートに基づいて可能にするシステムの開発も目的とした。本システムでは、ケースの有する問題性や困難性(8 Difficulty)とともに、予防や解決にとっての資源となる特徴(Strength)も同時に定性的な表現として出力できることを目標とした。

(3) 児童自立支援計画票および児童相談所援助指針の改良

児童自立支援計画ガイドラインで作成された児童自立支援計画票を検討し、ケースの抱える問題性の分析と課題化とともに、解決に向けた資源性についても検討していくことが可能な書式に変更することも本研究の目的の一つとした。

(4) 主要な子どもの発達と健康に関する 精査尺度の開発と標準値の設定

今回開発した自立支援計画作成支援ツールの中に、子ども家庭総合評価票で支援への留意の必要度が高いと判断された子どもの健康や発達に関する二次スクリーニング用の諸精査尺度を開発し、その年齢別標準値を設定することを第四の目的とした。この作業については、総括報告書の2. アセスメント精査尺度の開発と標準値設定に詳細を報告する。

B. 方法

以下の手順によって全年齢対応児童自立支援計画作成コンピュータ支援ツール「相談くん version 1.0」の開発を実施した：

- ① 平成 16 年度に開発された紙記入方式による「子ども家庭総合評価票」の電子化作業（電子版移植のコンセプトについては分担研究報告書（児童相談所における「子ども家庭総合評価票」の電子化に関する研究、分担研究者：安村 通晃 慶應義塾大学環境情報学部教授）に詳細を報告している）
- ② 全国児童相談所を対象としたコンピューター環境調査（詳細は分担研究報告書子ども家庭総合評価票およびコンピュータ入力システムの開発に関わる全国調査の概要、松本聡子 お茶の水女子大学 文教育学部講師・菅原ますみ お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 に報告している）および児童相談所、養護施設での現地ヒアリング
- ③ 開発グループ内でのコンテンツおよび機能の検討と試作版に関する動作モニタリング
- ④ 「相談くん」試作版に関する全国児童相談所および児童福祉施設（養護施設、児童自立支援施設）でのモニター調査。

C. 結果および考察

1. 子ども家庭総合評価票 スタンドアローン・タイプの開発

今年度の研究においスタンドアローン・タイプのコンピュータ版の開発の対象としたのは、児童相談所と児童福祉施設での使用を想定した以下の 5 年齢段階（乳児期：0 から 23 ヶ月、幼児期：2 歳～就学まで、児童期：小学校 1 年～4 年生、思春期：小学校 5 年生～中学 3 年生、青年期：中卒～18 歳まで）計 10 版である：

- ① 乳児期版（生後 0～23 ヶ月用）：養護・虐待・育成相談版および障害・保健相談版
- ② 幼児期版（2 歳～就学前）：養護・虐待・育成相談版および障害・保健相談版
- ③ 児童期（小学 1 年～4 年）：養護・虐待・非行・育成相談版・児童期：障害・保健相談版
- ④ 思春期（小学 5 年～中学 3 年）：養護・虐待・非行・育成相談版・児童期：障害・保健相談版
- ⑤ 青年期（中卒～18 歳）：養護・虐待・非行・育成相談版・児童期：障害・保健相談版

スタンドアローンタイプに仕様変更にあたって必要な、下記(1)～(6)のネットワークが前提となっている既存の機能をネットワークなしにスタンドアローンでも動くように改変するとともに、スタンドアローンでの利用に必要な(a)～(f)の機能を追加した：

★ ネットワークが前提となっている既存の機能

(1) 個人情報保護機能

- ・個人を特定するデータの暗号化機能
- ・児童相談所間データ移動専用入出力機能

(2) 利用者認証機能

- ・評価票データ入力者認証

(3) 基本データ設定機能

- ・児童相談所データ設定
- ・担当者データ設定

(4) 検索機能

- ・対象児童検索機能

(5) 評価票データ入力機能

- ・評価票種別選択管理機能
- ・評価票データ入力機能（既存評価票A 4350 ページ分）
- ・データ検索表示・更新機能
- ・選択的データ表示/印刷機能
- ・入力済み項目表示機能
- ・成長曲線グラフ上への身長・体重データ表示

(6) 評価票データ個別集計機能

- ・総括一覧シート生成・印刷機能

★スタンドアローンでの使用に必要な追加機能

- (a) 対象評価票検索機能
- (b) 項目別候補値自動入力機能
- (c) 修正版総括一覧シートの出力機能
- (d) 自立支援評価票の出力機能
- (e) 簡易評価結果出力機能
- (f) 統計解析ソフト（SPSS）用データ出力機能

以上の機能を搭載した電子版「子ども家庭総合評価票」を現場（全国児童相談所、養護施設、児童自立支援施設等）に依頼したモニター調査（詳細は分担研究報告書“子ども家庭総合評価票およびコンピュータ入力システムの開発に関わる全国調査の概要”を参照）を経て完成させた（添付資料およびCD-ROMについては添付資料1参照）。

(2) 定性的評価記述シートの開発

ケースの特徴を ① 困難性（評価票において留意の必要度が大きいと評価された項目）および② 解決への資源性（氷河票において留意の必要度が最小で、かつ年齢相当以上の到達点やサポート資源を有すると判断された項目）の2側面から定性

的に把握するためのシートを開発した（付表1）。

(3) 児童自立支援計画票および児童相談所援助指針の改良

児童自立支援計画票および児童相談所援助指針票に“援助上の資源”欄を設定し、対応する記述例を作成した（付表4）。

E. 結論

児要保護児童のための自立支援計画を立案するためには、子どもの発達状況および家庭・地域などの多様な環境因子の収集・評価・記録が不可欠であるが、本研究によって0歳から18歳までの広範囲な年齢段階を通して使用可能な汎用型の支援計画票作成電子化システムが作成され、多様な情報を効率よく収集・評価・保存し、かつ集計を可能にするコンピュータ支援ツールが完成した。乳児期から青年期までの子どもの健全な発達と問題行動の発達の状態評価およびそこに影響する環境因子の評価を発達軸に沿って評価する本電子システムの開発によって、今後、子どもの健全育成に関する多様な学術的研究や広範囲な福祉・保育・教育実践での利用が見込まれる。

<引用文献>

- Developmental Psychopathology* 2nd ed. Chicchetti, D. & Cohen, D. 2006, Wiley C
菅原ますみ（監訳）（2006）*発達精神病理学—子どもの精神病理の発達と家族関係—*
E. Mark Cummings, Patrick T. Davies, Susan B. Campbell 著 ミネルヴァ書房
Framework for the assessment of children in need and their families.
（Department of Health, UK, 2000）
ISBN 0 11322 310 2 Gateway reference: 2000 :
Crown Copyright

付表：

付表 1 - 1 資源性・困難性シート（児童期養護・虐待・育成版）

付表 1 - 2 「相談くん version 1.0」ユーザーマニュアル

付表 1 - 3 児童自立支援計画票・児童相談所援助指針票および記述例

付表1 資源性・困難性シート（児童期養護・虐待・育成版）


No.:ABCDEI2345

あいうえお・かきくけこ(10歳)女 記入者:蜂須賀香奈子(お茶の水中央児童相談所)

子ども家庭総合評価票の項目からみたケースの特記すべき特徴

「留意の必要度」において○(項目によっては○)は「困難性」に該当、採点項目で最低得点の場合は「資源性」に該当する。

👤 困難性と解決への資源性：パートI 子ども


困難性	資源性
主訴	主訴
問題は深刻で子どもの日常生活を大きく損なっている	問題はあるものの、今は日常生活への影響はほとんどない
虐待的養育の可能性	虐待的養育の可能性
可能性を示す徴候がある（不自然なあざがある）	虐待の徴候は今は見られない
可能性を示す徴候がある（不適切な養育行動が見られる）	
子ども自身	子ども自身
妊娠・出産時に問題があった	生育史上に大きな問題は今のところみあたらない
保育・教育歴上に問題があった	
過去に疾患既往歴がある	
●種類:	
過去に大きな怪我や事故を経験している	
●種類:	
実母と離死別経験がある	
●種類:	
実父と離死別経験がある	
●種類:	
発育に遅れがみられる	身体発育は標準範囲内に入っている
出現本数60%以上の未処置歯がある	起床や就寝時間は規則正しいリズムになっている
拒食状態にある	
異常な偏食がある	
生活のリズムが不規則	
学校に登校できていない	学校には登校できている
体力の発達に遅れがみられる	年齢以上の体力の発達がみられる
反応性愛着障害の徴候の可能性が考えられる（注1）	
行動に反社会的傾向が認められる（より詳細な情報収集が必要かもしれない）	
注意欠陥・多動傾向が認められる（注1）	
高機能自閉・アスペルガー障害の徴候の可能性が考えられる（注1）	
自傷的な行動がみられる	
●種類:	
学習障害の徴候の可能性が考えられる（注1）	
抑うつ傾向が認められる（注1）	
登校に関する困難が認められる	
学校で孤立している可能性がある	
学校での反社会的行動が認められる	
家庭内で暴力を振るっている	
身体疾患・障害の診断がある	
●種類:	
精神障害の診断あり	
●種類:	
情緒・行動上の問題がある	
●種類:	
低い自己イメージを持っている	自分を肯定的に評価できている
自己統制性が低い	自己統制性が高い
情緒表現に乏しい傾向がある	情緒表現が豊かである
共感性・協調性に乏しい	共感性・協調性に富む
主たる養育者との信頼関係に問題がある	主たる養育者とは良好な信頼関係にある
友だち関係に問題がある	良好な友人関係を持っている
学校の担任の先生との信頼関係に問題がある	学校の担任の先生とは良好な信頼関係にある
知的発達に遅れがみられる	年齢以上の知的発達がみられる
学業成績に問題がある	学業成績は良好である
年齢相応の身辺自立が達成されていない	年齢以上の身辺自立が達成されている
道徳的な規範意識が低い	高い道徳的な規範意識を持っている
主たる養育者に対する愛着形成が十分ではない	主たる養育者に対する愛着形成に問題はない
その他の養育者に対する愛着形成が十分ではない	その他の養育者に対する愛着形成は良好である
集団生活への適応に問題がみられる	集団生活への適応は良好である
	集中力があり物事を最後までやりとげることができる
(注1) 精査が必要かもしれない。	好きな活動がある
	●種類:

🏠 困難性と解決への資源性：パートⅡ 家庭


困 難 性	資 源 性
養育者の心身の健康について	養育者の心身の健康について
主たる養育者の身体疾患や身体障害が報告されている	
現在、主たる養育者の身体疾患や身体障害に伴う入院が1ヶ月以上続いている	
主たる養育者は身体疾患や身体障害のために養育が困難になっている	主たる養育者の身体疾患や身体障害が報告されているが、養育には問題がない
その他の養育者の身体疾患や身体障害が報告されている	
現在、その他の養育者の身体疾患や身体障害に伴う入院が1ヶ月以上続いている	
その他の養育者は身体疾患や身体障害のために養育が困難になっている	その他の養育者の身体疾患や身体障害が報告されているが、養育には問題がない
主たる養育者の精神障害が報告されている	
現在、主たる養育者の精神障害に伴う入院が1ヶ月以上続いている	
主たる養育者は精神障害のために養育が困難になっている	主たる養育者の精神障害が報告されているが、養育には問題がない
その他の養育者の精神障害が報告されている	
現在、その他の養育者の精神障害に伴う入院が1ヶ月以上続いている	
その他の養育者は精神障害のために養育が困難になっている	その他の養育者の精神障害が報告されているが、養育には問題がない
主たる養育者の人格障害傾向が報告されている	
●種類:	
主たる養育者に抑うつ傾向が認められる (注2)	
主たる養育者にアルコール乱用傾向が認められる (注2)	
主たる養育者の家庭内での暴力が報告されている	
●対象:	
その他の養育者の人格障害傾向が報告されている	
●種類:	
その他の養育者に抑うつ傾向が認められる (注2)	
その他の養育者にアルコール乱用傾向が認められる (注2)	
その他の養育者の家庭内での暴力が報告されている	
●対象:	
家族関係について	家族関係について
主たる養育者は対象の子どもに十分な愛着を感じていない	主たる養育者は対象の子どもに十分な愛着を感じている
両親の関係性は円滑なものとはいえない	両親の関係性は円滑である
対象の子どもときょうだいとの関係性は円滑なものとはいえない	対象の子どもときょうだいとの関係性は良好である
家族関係はまとまりを欠いている	家族の関係性は良好でありまとまりがみられる
主たる養育者は家庭を大切にしていない	主たる養育者は家庭を大切にしている
その他の養育者は家庭を大切にしていない	その他の養育者は家庭を大切にしている
今回の問題に対する家族の取り組みは弱い	今回の問題の解決に対する家族の取り組みはしっかりしている
基本的な家庭の生活や養育について	基本的な家庭の生活や養育について
住居の清潔に問題がある	住居は清潔に保たれている
家庭の経済状態は困窮している (4.ならば"生活保護を受けている")	家庭の経済状態はとくに困窮していない
対象の子どもに対する基本的ケアは十分なものではない	対象の子どもに対する基本的ケアに大きな問題はみられない
主たる養育者の対象の子どもに対する関わりは温かさに欠けている	主たる養育者は対象の子どもに温かく関わっている
その他の養育者の対象の子どもに対する関わりは温かさに欠けている	その他の養育者は対象の子どもに温かく関わっている
主たる養育者は対象の子どもを過度にコントロールしている	
その他の養育者は対象の子どもを過度にコントロールしている	
主たる養育者は子育てにストレスを感じている	
主たる養育者には子育ての相談相手や預け先がない	主たる養育者には子育ての相談相手や預け先がある
●種類:	
主たる養育者は子育てのサポートに不安や不満を抱いている	
家族の過去に大きな出来事があった	
●種類:	

(注2) さらに詳しい情報収集が必要かもしれない

 困難性と解決への資源性：パートⅢ 地域

困難性	資源性
近隣との関係について	近隣との関係について
対象の子どもの家庭は近隣から孤立している	対象の子どもの家庭は近隣と活発に交流できている
対象の子どもの家庭と近隣とのトラブルが報告されている	
対象の子どもは近隣の子どもと交流できていない	対象の子どもは近隣の子どもと活発に交流できている
(養育者は)居住地域へに対する愛着感が薄い	(養育者は)居住地域に対する愛着感を持っている
居住地域の子育て支援状況	居住地域の子育て支援状況
対象の子どもの居住地域は交通面や防犯面に危険がある	居住地域の交通面や防犯面は安全である
居住地域には児童館や子育て支援機関はなく利用していない	対象の家庭は居住地域の子育て支援機関を利用したことがある
居住地域には教育事業(子育て講座やサークル、子ども会活動など)や学習の機会がない	対象の家庭は居住地域の教育事業や学習講座などに参加したことがある
居住地域には自然の豊かな場所や公園がなく利用していない	対象の家庭は居住地域の自然の豊かな場所や公園を利用している
対象の子どもが所属する学級環境は落ち着いたものではない	対象の子どもが所属する学級環境は落ち着いたもの
家庭と学校との連携は十分ではない	家庭と学校との連携は良好である
	対象の家庭を支援してくれる人がいる ●種類:
	対象の家庭に対する支援を期待できる人がいる ●種類:
	対象の家庭は子育てサービスや支援機関を利用・参加したことがある ●種類:
	対象の家庭には今後利用を希望する子育てサービスや支援機関がある ●種類:
	対象の家庭は公的な手当を受けている ●種類:

memo



パート I インストール

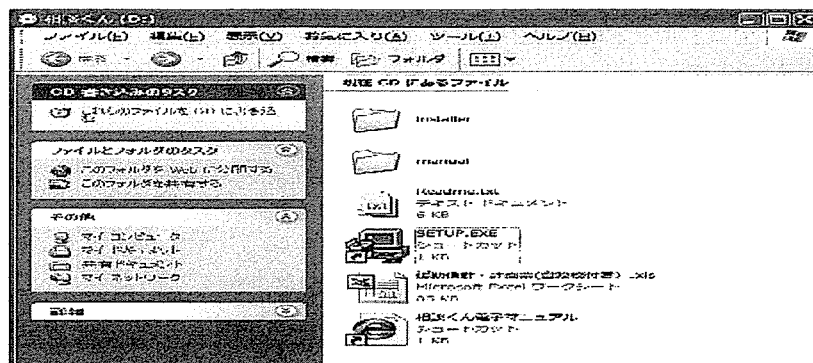
[目次に戻る](#)

■「相談くん」のインストール

● 手動インストール

「相談くんVer.1.0」CDをCDドライブに挿入します。

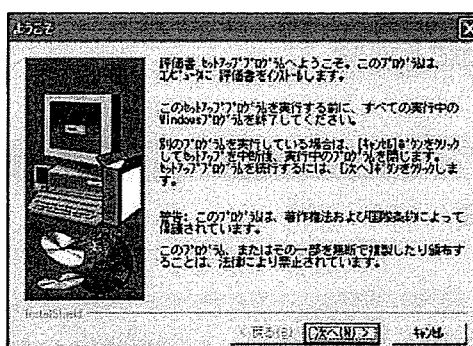
次に「SETUP.EXE」のショートカットアイコンをダブルクリックして、インストーラを起動してください。



CDの内容

● インストールの開始

インストールを開始します。問題がなければ「次へ」ボタンを押してください。



インストールスタート画面

● インストールするフォルダの選択

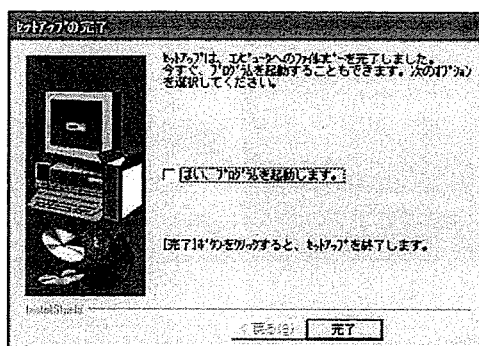
インストールするフォルダを選択します。問題がなければ「次へ」ボタンを押してください。



インストールフォルダ選択画面

● インストールの完了

インストールが完了しました。すぐにプログラムを起動する場合はチェックボックスにチェックを入れて「完了」ボタンを押してください。




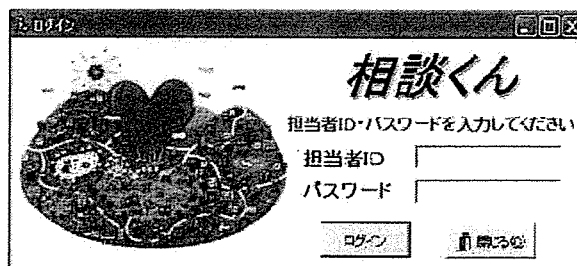
インストール完了画面

パートⅡ 初期設定

[目次に戻る](#)

■1. 「相談くん」の起動・管理者でのログイン

デスクトップ上のアイコン  をダブルクリックすると「相談くん」ログイン画面が表示されます。



ログイン画面

● 「相談くん」にログイン

初めて「相談くん」を起動した場合は、担当者は登録されていないため、管理者でのログインとなります。

担当者ID: admin

パスワード: admin

でログインし、各種初期設定(児童相談所設定・担当者設定)を行ってください。

※(重要)セキュリティ確保の為、管理者のパスワードは「担当者設定」で必ず変更してください。

※IDとパスワードは、半角英数字255文字まで使用できます。

[目次に戻る](#)

■ 2. 児童選択画面(管理者ログイン時)

● 管理者メニュー

管理者IDでログインした場合は左上に管理者メニューが表示されます。

- ・児童相談所設定
- ・担当者設定
- ・担当者割当

の3つのメニューから必要な設定を行います。

児童選択画面(管理者ログイン時)

[目次に戻る](#)

■ 3. 児童相談所選択画面